
コードギアス～反逆のルル子～

田中太郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

コードギアス〜反逆のルル子〜

【Nコード】

N6090X

【作者名】

田中太郎

【あらすじ】

この物語は、悪逆皇帝ルルーシュが性転換して転生する物語です。
更新は亀

文章はめちゃくちゃの駄文ですが宜しくお願いします。

プロローグ(前書き)

すみませんです 悪ふざけが過ぎました。

プロローグ

俺は悪逆皇帝ルルーシュヴィブリタニアは、仮面の英雄ゼロによって打たれた。

そして、

性転換して転生した。

ブリタニアの少女ルル子には、秘密が二つある。

一つは、前世の記憶即ちルルーシュヴィブリタニアの時の記憶があること。

二つ目は、王の力…ギアスをもってること。

ルル子はこの二つの秘密を使って何を成すのか…

） 自分のくせかーいさえも（ry

何故こうなった？

ルル子の気分は最低だった。

なぜならば、親友であるスザク（ゼロ）に打たれて、目が覚めたら

女に生まれ変わっているのだから…

転生したのは、ゼロレクイエムが成功し軍事力ではなく話し合いと
いう一つのテーブルについて3年後の
ナナリーの望んだやさしい世界だった。

しかし平和は、長く続かない。

ルル子が15歳になった時、あの男が目覚めた。性格には目覚めさせられた。

戦場で狂ったように、戦う王…狂った王……狂王ーライが目覚めさせられた。

記憶を改ざんされ、今の世界を壊す道具として…

ルル子が17歳になった時、

ライは、ギアスや第十世代ナイトメアフレームー狂王ーに乗り今の世界を壊し、世界統一を果たした。

しかし、その世界は逆らうものはすべて殺してしまう独裁政治だった。

ルル子は激怒する。

そしてもう一度その瞳に炎を宿す

「私は、もう一度ブリタニアをぶっ壊す！」

プロローグ（後書き）

すいませんでした

調子乗りました。

設定1 (前書き)

設定です

設定 1

ルル子…

拙作の主人公ルルの生まれ変わり、前世の記憶を持っている。そして何故かギアスも持っている。危険なのを知っているため、使っていない。

作者の都合上、一人称は私

性格は、前世のまんまで知能も同じ、ただ身体能力は、何故か高い
容姿はルルの女装した時のやつ

スザク（ゼロ）

一応、構想ではルル子がゼロになる予定なのでスザクと表記します
もうすぐ40のスザク
ただし容姿は昔とほとんど変わらない
最近、ストパーかけようと思っっているけどゼロの仮面付けるから分
からないことに最近気付いた
脳筋。

おれんじ…

20年近くオレンジ畑を耕していたけど最近リンゴにしようかと真
剣に悩んでいるもうすぐ55歳。

アーニヤ…

20年たつてもキャラが変わらないぶれない人
まな板が変わらなかつた残念なキャラ
もうすぐ40なのに、全く変わらない超人。

設定1（後書き）

何書いているのか分からない
拙作ですがよろしくお願ひします

ていうより作者が暴走している作品ですので気を付けてください
そのうちちゃんとしたコードギアスの作品を書きたいと思っています。

設定はキャラが増えたらときどき増やします

現在2話までの登場人物

第1話(前書き)

ISのも書いてるんでよければ

第1話

ブリタニアの少女ルル子は、選べる道を二つ持っている。

一つは、狂王ライに反逆する道

もうひとつは、反逆せずにライにおびえて生きる道

ルル子は、有限の苦難か無限の苦難どちらをとるのだろうか…

ルル子は、まず協力者を探すことにした。

一番最初に目を付けたのは、かつて一緒に世界を変えたスザクだった。

彼は、今もう40近くの間人だが、身体能力はほとんど衰えていないようだ。

そして、今は枢木神社に身を潜めている気がしたので枢木神社へ向かった。

案の定見つかった。

容姿がほとんど変わっていないなかったのですぐにわかった。

スザクも前世とほとんど変わっていない私の顔に気づいたようだ。

最初は警戒されたが、すぐに解いてもらえた。

そして、自分の考えていることを話して仲間に誘った。
スザクも同じい気持ちだったらしく、すぐに承諾を得られた。

次にわたしは、ジェレミアを仲間にすることにした。

オレンジ農園に行ったら、仰々しく出迎えてくれた。話をしたら、
こちらもすぐに承諾を得ることが出来た。

何故かアーニヤまでもが付いてきてくれることになった。元ラウン
ズが味方に付いたのは大きかった。

第1話（後書き）

この小説は、1話1話短くします

長くすると暴走する予感…

第2話(前書き)

メインで書いてるのよりこっちの方が書きやすいのはなぜ？

相変わらず短いです

第2話

とりあえず3人仲間が集まったところでルル子は気付いた。

こいつらもうすぐ40と55だぞなんで容姿がほとんど変わらない！？

おれ…ジエレミアは、半分機械だから分かるが…

スザクとアーニヤはどうなんだ？

特にアーニヤなんて背が少し伸びたか？ってくらいで他は変わっていないぞと。

次の日

ルル子は、だれか忘れている気がしていた。でも、思い出したらとてつもなく後悔しそうだったから思い出さないようにしていた。

しかーしそこにスザクがやってくる。

そして

「あれ？ルルーシュ？C・Cは仲間にしなくていいの？」

思い出した…聞きたいこともあるから探すことになった。

とても後悔した。おもにこれからの食費で…

仲間全員がC・Cを探すのは時間が掛かるから後回しと言っていたが、

家の周りにピザを置いたらすぐに見つかった。…見つけてしまった…

そして、聞きたいことをとりあえず聞いた。

生まれ変わったのにギアスを持っているのか？と

しかし神は無慈悲だ

C・Cは散々ピザを要求した挙句答えは、知らんもつとピザよこせだった。

ルル子はぶち切れた。

転生して何故か上がった身体能力でC・Cをフルボッコにしていた。

ルル子にぼこられたことがこたえたのかC・Cはホントの事をしゃべった。

本来ギアスユーザーは、人とは違う理で生きていた為転生は出来ずにCの世界に居続けるのだが

何故かルル子は、その理から外れたと言っていた。

何故理から外れたのかまではさすがに分らないようだった。

次に、もっと戦力がほしくなったルル子はとりあえずコーネリアと
ジノそしてカレンを仲間にすることにした。

第2話（後書き）

感想待ってます。

第3話（前書き）

今回は、無理やりな上からですが…

ご了承ください。

第3話

まずは、ルル子に代わる戦場での指揮官がほしかったので、コーネリアを仲間にすることを優先した。

だが、コーネリアに関する情報は皆無だったので

不本意だが、ジノを最初に探すことにした。

ジノは、アッシュフォード学園で教師をやっていた。

話を聞いてもらったが、ジノは断った。今の仕事が楽しいそうだ。

ここまで、来て収穫なしはきついでルル子は最終手段を使った。

給料倍にしてやるから、来てくれと頼んだらすぐOKが出た。

結局給料の問題かよとルル子は思った。

「（まあ、給料を使うヒマもないくらいこき使ってやるがな。）フ
ハハハハ」

突然高笑いしたので、回りの人たちにかなりひかれた。

次は、カレンを探しに行った。

カレンは日本空軍KMF部隊の隊長をやっていた。

とりあえず、勧誘してみたらOKがすぐ出た。

それだけではなく日本軍はルル子たちに協力してくれるそうだ。

ルル子は自身の部屋で考え事をしていた。ピザのコミだらけでいらつとしたが…

これで、駒の条件はクリア。

後は、私に代わる前線での指揮官だな…

やはり、コーネリアか…

そんなことを考えていたら、ルル子の部屋のモニターに通信が入る。

通信の主は…なんと…

ライ

ではなく、コーネリアとギルフォード、ノネット＝エニアグラムだった。

なんと、斑鳩級の航空母艦5隻とKMF500機、さらに50万の兵士を連れてこちら側に就くそうだ。

さらに、元ブリタニアで今現在ライ率いるブリタニアに占拠されていない基地は自由に使っていいらしい。

一気に戦力は整った。
後は、ライをたたくだけだ。

第3話（後書き）

私が、初めて書いた作品であるISの方もよければ見てってください。

プリン伯爵でてるよ。

第4話（前書き）

駄文ですが宜しく願います。

第4話

ライをたたく前に、

(作者が)忘れていた。人を仲間にしに行った。

まずは、さよこさん。すっかり忘れてました。

次に、プリン伯爵とセシルさん。あと、ラクシャータこの人たち居ないとナイトメア作れないじゃないか。

とりあえず、この人たちを仲間にした。

ルル子は、またもやだれか忘れてる気がしていた。

忘れてはいけない人だった気がする。だが、思い出せない。

そんなことを考えていると、

部屋のモニターに通信が入った。

その相手は…なんと…

敵将である、ライだった。

「あいさつは省かせていただく、貴様らは、私に反逆しようとして
いるんだっただな？」

「ああ、そうだ。（ナナリーの臨んだ世界に変える。）」

「この世界が、ナナリーによって作り出された世界だとしてもか？」

「な！そんなはずは……」

「ある。こっちに来てくれ。」そしてナナリーがやってくる。

そして、「私が、ライ様をお願いして今の世界を作ったんですよ。
お兄様」

「……あ……」ルル子の中の世界が崩れていった。

第4話（後書き）

感想よろしくです。

第5話（前書き）

思ったより、更新しやすいのでしばらく毎日更新できます。

カオスです。

第5話

「（な、何故、ナナリーが…）」この時ルル子は気付かなかった。
いや、気付けなかった。

ナナリーの眼のふちが赤くなっているのを…

「何故なんだ！ナナリー？（あんなに、優しい世界を望んでいたのに…）」

いつものルル子なら、ギアスの可能性に気付いただろうが、今は冷静になれずにいたので気付けなかった。

「お兄様には、わかりませんよ…」

「そういうことだ。まあ、私を倒したいのならば、ここに…」

そう言って、ライはルル子のモニターにある座標を送る。

「ではな。」

「まっ待ってく…」ブツンと通信が切れる。

そして、へなへなとベットへ倒れ込む。

「（何故だ？何故なんだ。）ナナリイイー！！！！」
その数分後…

ほとんどの基地が陥落させられた。

コーネリアたちもライによって、ギアスをかけられていた様だ。

「（ちっ！もつと冷静になっておけば…くそ、これでは、一からやり直しではないか。」

いや、もついいのか？ナナリーが望んだ世界を壊すのは嫌だ。」

ルル子は、諦めた。

「ルルーシユ！どこに行くんだ？」

「陛下！」

「ルルーシユ！」

「ルルーシユ様。」

上から、スザク、おれ…ジエレミア、カレン、さよこさん

「どこだろうな？…もついいんだ…（そう、もついいんだ…）」

「ルルーシユ！君はまた嘘をつくのかい？」

「そうよ、また逃げるの？」

「陛下、ここで逃げるのは…」

「ルル子様……」

「うるさい…ナナリーが、ナナリーが、」

「ナナリーがどうしたんだい？」

「ナナリーが、ライと一緒にいたんだ。この世界を望んだのは、ナナリーだったんだ。」

ルルーシュは、あの時の通信の事を話した。

第5話（後書き）

ほんと、何が書きたいかわからなくなりました。

感想待ってます。

あ！ネタ等も待っています。

第6話（前書き）

はい、連載再開です！

前の話、ちょっと変えてストーリーに大きな影響が出ているので
前の話から読んでください。

第6話

ルル子の部屋にて、先ほどのルル子とナナリーの通信について、ルル子から聞いたスザク、ジェレミア、カレン、さよこの4人の顔は、あまり悲しみなどの悲壮感はない。出ていなかった。これは、やはり年を取ったことによる貫禄と言っものか。

「そう、悲観することはないよ。ルルーシュ。」

「そうね。ライが示した座標に行けば、なにか分かると思うわ。」

「ルル子様、残存勢力はすでに集めてありますよ。」

そのさよこの言葉は、すぐに出兵することができるというこの裏返しだ。

「陛下、ご英断を。」

未だに体の半分が機械のジェレミアの言葉を受け、ルル子はすこし考える。

「…（この座標は…新宿のあたりか…皮肉だな。俺が、ゼロが始まった場所か…」

まあ、今はそこではないか…残っている残存勢力をすべて使うのは、得策ではない。

新宿へ向かうのは、ココに居るメンバーで十分だろう。…ナナリー

「は俺が救おう…よし！」

長い、考察の結果、ルル子が下した決断は…

「ここに居る、メンバーでこの座標への奇襲をかける！行くぞ！」

奇襲だった。もちろんここに居る、メンバーに不満はない。

しかし、この作戦は、やはり作戦と呼べるものではなかった。まず、圧倒的に人数がすくない。

これは、一番のウィークポイントになるだろう。だが、そこはルル子とスザクの二人が居るのでできないことはない。

「はい。」

「了解。」

「イエス・ユア・マジエステイ」

「OK！」

上から、さよこ、カレン、おれん…ジエレミア、スザクの順だ。

そして、5人はかつて、新宿ゲッターと呼ばれていた（今も、ライの支配によって、そう呼ばれているが）

座標の所まで来ていた。

第6話（後書き）

お久しぶりです。

田中太郎です。

少し、短めの更新停止でしたが、解禁します。それでは、また。

第7話（前書き）

そういえば、この小説ってライが悪者なんですね。

第7話

ルル子たちを載せた、ヘリ（光学迷彩、ステルス完備）が新宿ゲッターに赴く。

数十分で到着し、ヘリを降りる。

「このあたりだな……」

「ルルーシュ、あれを見て。」

スザクが、ルル子に上を見るように促す。

促されるままに、上を見ると、狂王　ライとマリアンヌ・ヴィ・ブリタニアの娘にして、ルルーシュ・ヴィブリタニアの弟、ナナリー・ヴィ・ブリタニアがいた。

「ナナリー……」

「……………」

ルル子は、悲しい目でナナリーを見るが、ナナリーはルル子を見ようともしない。

「皆さん、よく来て下さいました。」

「私は、あなた達にチャンスを与えようと思います。あちらをご覧ください。」「

そう促した方向には、どこかへつながる扉がある。

「そちらの扉から、入っていただくと、ありところへ自動的に送られます。そこは、私たちがバトルタワーと読んでいて、私たちの組織の幹部がフロア事に守ってもらっています。彼らに勝ったら最後に、このライが待ち構えています。これが、チャンスの内容です。では、がんばってください。」

機械的に事務的に台本を、無感情に読み終わるとライと一緒に去って行った。

ルル子は、それを悲しい目で見ていた。

「…よし、じゃあバトルタワーとやらに行くとするか…」

そう言うと、トボトボとバトルタワーにつながる扉へ向かっていく。4人は、それに無言でついていった。

この時、ここに居た全員が感じていた。これからは死闘になると…

第7話（後書き）

え、何やら血迷った展開になっていますが、呼んで行って下さい。

第8話（前書き）

短くてすみません。

第8話

ナナリーとライが去ってから、タワーへ続く扉に向かい、ルル子が扉を開く際、急にスザクが、言いかかってきた。

「ちょっと待って、ルルーシュ。」

「なんだ？スザク。トイレか？」

「いや、違うよ。あ！いやでもちょっと、行きたいけど、今は違う。」

「じゃあ、なんだ？」

「うん、ここから先は、【かもしれない運転】で行かないといけな
いと思う。」

「……はああ？」「……」

スザクのおほみたいな、回答にルル子だけでなくほかの3人まで反応する。

「……スザク……お前……」

ルル子、さよこ、おれんじ、カレンの冷たい視線が、スザクに突き刺さる。

「いや、だって…さ…ね？」

「もういいわ、早く行きましょっ？」

歯切れの悪いうざくを無視し、カレンが扉をあける。

「ああ！」

スザクが、変な声を上げると同時に、その場にいた5人が光に包まれた。

その光が消えた時には、目の前に大きなタワーが建っていた。

「ここか…」

「ついにきましたね。」

「陛下、足元にご注意ください。」

「高いわね〜」

「僕たちが歩く道を、ありの大行列が通ってるかもしれない。」

ボコ×4

未だにかもしれない運転中のスザクを、4人が黙らせ、件のタワーへ入っていく。

「たんこぶが…できたかもしれない…」

ウイーン

自動ドアが開くと、ルル子たちは中に入る。すると、すぐにロックされる。

「…（終わるまで出れないという事が…）」

ルル子がそう悟った時、上から甲高い耳障りな高笑い声が聞こえてきた。

『ホッホッホッホ、よくぞ参られた。我は、【初めの間】をライ殿に託された、鼠である。では、勝負のルールを決めよう。』

そこまで言うと、ようやく姿を現す。

現れた人は、恰幅のよい体つきをした、初老の男だった。

「ホッホッホッホ、こう見えても我は、チェスが得意でな、誰にも負けた事がないのだ。

ということ、チェス勝負でいかがか？もちろん、賭ける物は、自らの命だ。」

「（ほう、この俺…私にチェス勝負を仕掛けるか…）いいだろう、だが…後で、泣き言を言うなよ。」

「…生意気な…では、始めるとしようかの…」

そう言うと、上空からチェス盤と駒が降りてくる。

正面に向きあい、駒を並べる。ちなみに、ルル子が黒の駒、鼠が白の駒だ。

「では、行くぞ。」

ルル子と鼠の命をかけた、チェス対決が始まった。

第8話（後書き）

1回戦は、チエスです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6090x/>

コードギアス～反逆のルル子～

2012年1月4日13時48分発行